

**【数字を読み解く】20日間**  
～感染ピークから宿泊施設の稼働が持ち直すまでの期間  
第6波、高止まりで影響厳しく～  
<2022/3/4 大分合同新聞掲載>

数字は、過去の新型コロナウイルス感染拡大局面（第3波～第5波）における新規感染者数のピークから、宿泊施設の稼働状況が持ち直しに転じるまでに要したおおよその期間だ。全国における日次の新規感染者数と、公益財団法人九州経済調査協会が日次で公表している、大分県の宿泊稼働指数を照らし合わせて分析したもの。なお、福岡県、大分県の新規感染者数と本指数を比較してもおおむね同様の傾向がみられる。

ただし、感染症第6波においては、2月5日（10万5614人）をピークに新規感染者数が減少に転じてから20日間を経過した時点で、宿泊稼働指数が持ち直しに転じていない。各宿泊施設からも、「例年2月は閑散期であるが、それを割り引いても客数は極めて少ない。また、先行きの予約状況も低調」との声が聞かれている。これは、新規感染者数のピークから20日間の減少幅（マイナス37.8%）が、過去の感染拡大局面の減少幅（マイナス52.3%＝単純平均）に比べて小幅にとどまっているほか、新規感染者数の水準も依然として高止まりしていることが要因と考えられる。

感染症第6波の宿泊施設の稼働状況に対する影響は、過去の感染拡大局面に比べても厳しいものとなっているが、冬の終わりとともに感染症が収束し、観光面でのトップシーズンである春を迎えることを期待しつつ、先行きの動向を注視したい。（日本銀行大分支店）